

IDDNewsletter..... 12

2020 December



静物デッサン（大学入試に向けた実技演習）専攻科情報デザイン科2年 越湖宝

特集

〈デッサン〉とは？

デッサンとは何かについて、改めて意識して考えてみると、その説明は一筋縄ではいかないことに気づかされます。基礎中の基礎であるが故、深く考えてデッサンをすることは、少ないですし、私もその一人あることに気づかされました。今回は、少し踏み込んで〈デッサン〉のことについて、担当者なりの考えをお伝えできたらと思います。

〈デッサン〉とは？

デッサンとは何かについて、改めて意識して考えてみると、その説明は一筋縄ではいかないことに気づかされます。基礎中の基礎であるが故、深く考えてデッサンをすることは、少ないですし、私もその一人あることに気づかされました。今回は、少し踏み込んで〈デッサン〉のことについて、担当者なりの考えをお伝えできたらと思います。

〈デッサン〉をインターネットで検索すると、「素描」とあります。さらに、素描を検索すると、「物体の形や明暗を平面に描画する美術における制作技法」と検索結果が示します。言葉に表現するとシンプルではありますが、この検索結果を見て、なるほど納得、と思う人はどれくらいいるのでしょうか？

おそらく、これで腑に落ちる人は、デッサンの経験者以外にはいないように思います。そうではない方は、「よくわからないけど、そういうことなのね」と、さらっと流すことでしょう。なぜ、このように思うのかというと、デッサンは万人が行うことではなく、ある一定の定められた人しか関わりのないことだからだと思います。それ故に、「デッサン」というイメージには、各人において偏りがあり、一定のものとは言えないのかもしれません。

「デッサンは何のためにやっているの？必要？」と質問されたときに、きちんと答えられるのか不安に駆られます。私自身、学生時代にデッサンを行うときには「授業だから」「部活動の一環として」「受験に必要だから」とデッサンの根本的な意義を完全に無視した状態で、義務的にやっていたように思います。教師となり、デッサンの授業で教える立場となった今、何のためにやっているのか、いざ説明しようとするとな非常に戸惑う自分がいることに気づき、改めて、その意義について考えてみようと思いました。

まず、デッサンという言葉は、一般的に、どのように理解されているのでしょうか。「鉛筆や木炭で書き込まれた写真の

ような白黒の絵」「置物や人物を描く行動」「美術大学の入学試験の内容」等、様々な説明の仕方があると思います。しかし、どれもどこかぼんやりとした抽象度の高い説明であり、説明によりそのイメージには偏りがあることでしょうか。さらに言えば、辞書で調べたことを、まとめると「絵全般」と示されています。極論すれば、「絵のこと」で済んでしまうかもしれません。単純すぎて拍子抜けしてしまいます。

話を少し戻して、「デッサンは何のためにやっているの？必要？」の問いに対して、一般的な心の声を補足するのならば（「美大受験を目指す人が描くような」デッサンは必要？）となるわけです。そのような問いに対し幅広い層に向けての回答は、直接的な生産性がない以上、「必要ない」と答えておくのが無難なのかもしれません。

では、デッサンの必要性は、どのように訴えるのとよいのかと考えると、一つは、デッサンをすることで身に付く力について伝えるということが考えられます。美術に係わる専門学として身につけておくべき能力は、デッサンでしか身に付かない、だから必要なのだ、という論法です。

さらに、デッサンのことを、いろいろと調べていくうちに『デッサン＝言葉・言語』と表現しているものを見つけましたし、さらに、私が最近、気になっている『ブルー・ピリオド』（図1）という漫画には「美術は自分に素直な人ほど強い。文字じゃない言語だから」（一巻・43頁）と、静かながらも力強い台詞があります。少し違う観点では「（デッサンは）



図1 ブルー・ピリオドのイメージ図

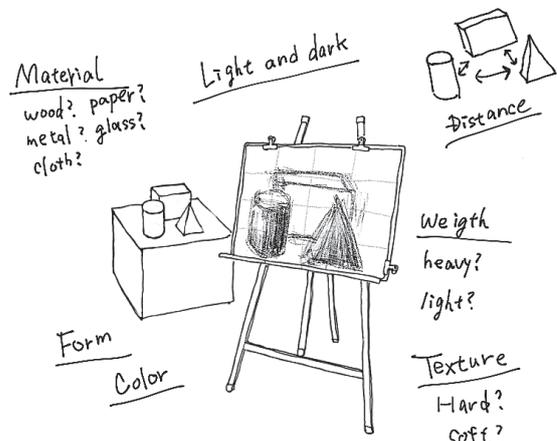


図2 デッサンに必要な要素

自分で表現する作品を制作するための言語を育ててくれる」と語る人もいます。私には、こちらの表現の方が、じっくりきます。デッサンをするために必要なことは「線で輪郭、立体、陰影などを表現する力」だと思います。それは「しっかりと形を観察して、点や線、面や色、質感、色相、彩度、明度、形体同士の関係や、遠近感、量感、動勢で表現する力」（図2）であると言えるでしょう。

デッサンのモチーフは、基本的に三次元です。デッサンにおいては、これを、脳内で二次元に置き換える情報の整理整頓が必要になります。そして、整理された情報を、トレーニングの結果として身につけた描画技法（図3）を駆使して、描いていくのです。この作業は、脳内で様々な情報を言葉に置きかえながら行われます。これを、「視再変換」と呼びます。「デッサン」は、造形的な情報を言語的に整理していく作業であると言っても過言ではありません。三次元を二次元に、完全に置きかえることは不可能ですが、先人達は、「描く」という行為に法則性を見出し、現在の描画技法が成り立っています。つまり、「描く」という行為自体が発明なのです。そこに至るまでに、人間の脳内では様々な言語的なフレームワークが構築されていたことでしょう。

この作業は、まさに、言語を駆使し、思考を促す活動そのものです。意見を言ったり、冗談を言ったりして、日々の生活を豊かにする活動であると同時に、思考を深めたり、自分自身を表現したりするような極めて本質的な活動であるといえます。そうすると、デッサンを行うことは、人生において、必要ない無駄なことなのではなく、豊かな人生を送るために、積極的に行った方がよいことと言えるかもしれません。

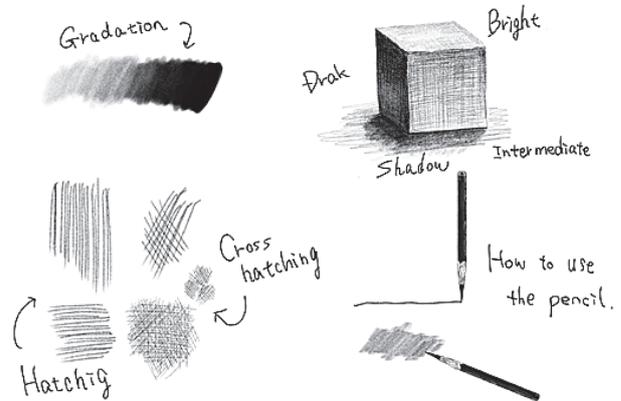


図3 デッサンの描画技法



12月の授業の1コマ

自作のお菓子を自らカメラで撮影する学生。お菓子作りから、撮影まで、幅広く充実した造形活動を行いました。



Contents

2-3

特集

〈デッサン〉とは？

デッサンとは何かについて、改めて意識して考えてみると、その説明は一筋縄ではいかないことに気づかれます。基礎中の基礎であるが故、深く考えてデッサンをするには、少ないですし、私もその一人あることに気づかされました。今回は、少し踏み込んで〈デッサン〉のことについて、担当者なりの考えをお伝えできたらと思います。

Welcome to Information Design Department!!

令和3年度の 入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和3年度入学生を募集しています。聴覚障害のある方で、高等学校や、特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食を利用でき^(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます^(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前（例年1月下旬を予定）まで教育相談等に対応できます。一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談に越しになることをおすすめいたします。

注1：1食330円（昼食）で、就学奨励費の対象となっています。注2：長期休業中や連休、学校行事の関係で年数回閉鎖します。注3：材料費等は保護者負担になります。選択科目等により、一人一人の額は異なりますが、概ね年間2万～3万円前後です。かかる金額については、授業で実際に使用する2ヶ月前に金額をお知らせし、納入していただきます。必要な物を学生自身が購入し、学校に持参することも可能です。また別途インターシップ保険料、学生会費等がかかります。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常の領域で、障害そのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係る内容となり、学校の教育活動全般をおこなって行われます。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

December 2020 12

IDDNewsletter

December 2020

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。（いわゆる「準ずる教育」の教育課程です）
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学習内容を学ぶことができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。（例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！）
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね（「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等）に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障害教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注5)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって) やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に選択できるようにしていきます。